鴨君足人の香具山の歌一首　并せて短歌

二五七番

天降りつく　天の香具山　霞立つ　春に至れば
松風に　池波立ちて　桜花　木のくれしげに　沖辺
には　鴨つま呼ばひ　辺つへに　あぢむら騒き
ももしきの　大宮人の　まかり出て　遊ぶ舟には
梶棹も　なくてさぶしも　漕ぐ人なしに

反歌二首

二五八番

人漕がず　あらくも著し　潜きする　鴛鴦とたか
べと　舟の上に住む

二五九番

何時の間も　神さびけるか　香具山の　桙杉が末
に　こけ生すまでに